

復され、癬痕を残す。底面には出血や漿液滲出、膿苔、痂皮を伴い、先行病変の一部が残存することが多い。血行障害（うつ滞性皮膚炎、膠原病、血管炎、動脈閉塞、糖尿病など）、感染症、悪性腫瘍などに引き続いて潰瘍を生じることが多い。

性病性の潰瘍はとくに下疳（chancre）といい、梅毒性のものを硬性下疳、軟性下疳菌によるものを軟性下疳と呼ぶ（27章参照）。また皮膚での急激な壊死潰瘍を壊疽（gangrene）という。

## 10. 亀裂 fissure ★

表皮深層から真皮にいたる線状の細い裂隙で、俗にいう“ひび割れ”である（図 4.23）。手足の慢性湿疹、乾癬、口角炎などの病変に伴うことがある。手足や関節部、間擦部、皮膚粘膜移行部に生じやすい。

## C. 粘膜疹 enanthema

口腔や眼、外陰部などの粘膜部に生じた病変を、粘膜疹（enanthema）という。特殊な用語として以下のようなものがある。

### 1. アфта aphtha ★

1 cm までの疼痛を伴う円形および境界明瞭なびらんが、粘膜に生じたものをいう（図 4.24）。表面に黄白色の偽膜を附着し、周囲に炎症性の潮紅を伴う。治癒後は癬痕を残さない。深い潰瘍となった場合は、アфтаとは呼ばない。アфтаを生じる疾患としては、ウイルス感染症（単純疱疹、水痘、手足口病など）や Behçet 病などがある。

### 2. 白板症 leukoplakia ★ ★

正常では角化しない粘膜上皮が角化を起こし、白色に見えるようになった状態である（図 4.25）。良性のものもあるが、前癌状態の可能性もある（22章参照）。



図 4.24 アфта：Behçet 病



図 4.25 白板症（基底細胞癌上に生じた）

## D. 皮膚の隆起を主とする病変

### 1. 苔癬 lichen ★

直径 5 mm 大までの丘疹が多発集合し、長くその状態を持続